

教育目標 やさしく かしこく たくましく



畑小
だより

佐渡市立畑野小学校
学校だより
令和3年2月5日発行
校長 古塩 正明
Tel.0259-66-2019

鬼 退 治

校長 古塩 正明

連日コロナ禍のニュースばかりで、収束の兆しがなかなか見えない、何となく不安で重苦しい毎日が続いております。また、今年は新潟県が大雪に見舞われ、日常生活に支障を来すようなこともありました。

そのような中でも、学校での教育活動が続けられていることに、安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。いろいろな制約の中、子どもたちも目に見えない不安や不満、戸惑いが多くあると思いますが、畑っ子の「たくましさ」で、これからも乗り越えていってほしいと思います。

当校でも、毎年体育館で実施している「全校豆まき集会」を中止にしました。日本の伝統行事である「節分の豆まき」を学校でできなかったのは残念ですが、それぞれ各家庭でやってくれたことでしょう。ぜひ、自分の中にいる悪い鬼を追い出して、コロナに負けない、健康で、安全で、充実した1年になるように願ってほしいです。

鬼と言えば昨年、鬼を退治するような漫画が大流行しました。そして佐渡と言えば何と言っても「鬼太鼓」が有名です。まさにコロナ禍の中、「鬼ブーム」が来ているのかもしれませんが。

鬼といえは昔から日本に伝えられ続けたもので、文明が発達した現代でもさまざまな場面で、登場したり、言葉で出てきたりしています。昔話のキャラクターとして、「悪い鬼」「優しい鬼」「いたずらな鬼」としていろいろな物語に出てきます。ことわざでは「鬼の居ぬ間の洗濯」「鬼に金棒」「疑心暗鬼」など、悪くて強いイメージで使われます。

逆に「心を鬼にして注意する」とか、「仕事の鬼」「鬼子母神」「鬼の目にも涙」とか、前向きな言葉にも使われることがあります。

誰も鬼の実物を見たことがないこの世の中でも、私たちの生活や心の中に生き続けているのには何かしら理由があるからだろうと思います。鬼が全部退治されて、いなくなったとしても、これからもずっと人々の心の中に生き続け、私たちに何かを訴え続ける存在として、生まれてくるものなのかもしれません。ということは、「悪くて強いもの」「恐ろしくて怖いもの」はいつの時代でもいるということ、また、人や自然にとって、悪いものを退治してくれる今でも「いなくてはいけないもの、必要なもの」として鬼は生き続けていくののかもしれません。

「そんなことしていると鬼が来てさらっていくよ」「悪い子は、鬼の大好物だよ。」などと言われ、怖がっていた小さいころの記憶は薄れても、鬼は今でも私たちのことをどこからか見ているのかもしれませんが。そして、いつでも退治しに来てくれるのを待っているのかもしれませんが。

畑野小学校の子どもたちはどんな鬼を退治して、鬼より強いどんな「たくましい子」になってくれるのでしょうか？楽しみです。

新1年生1日体験入学



2月3日（水）来年度入学予定の園児たちが学校に来て1年生と一緒に活動をしていきました。23名の園児たちは、すっかりお兄さん、お姉さんらしくなった1年生と図工室の飾り作りをしたり、こま作りをしたりして、楽しいひとときを過ごしてくれたことだろうと思います。お家の人を待っている間、図書室では、平野先生から読み聞かせをしてもらいました。

4月からまた元気に学校に来てくださいね。
なお、学校説明会にご参加くださいました保護者の皆様には深く感謝申し上げます。

マーチング引き継ぎ練習

3月5日、本校では、マーチング引き継ぎ式を予定しています。

今年はコロナ禍で、安寿天神祭りでの参加はできませんでしたが、運動会では小雨の中でも、頑張っ披露することができました。

そのマーチングバンドが来年度、また、新メンバーに引き継がれます。今、6年生が、昼休みや放課後等に新メンバーに一生懸命教えてくれています。また、伝統が引き継がれています。



児童の活躍

新潟県ジュニア展

奨励賞 1年

奨励賞 4年

第56回新潟県中越教育美術展

特選 1年

金賞 1年

2年

1年

3年

2年

3年

3年

5年

4年

6年

5年

5年

6年

第45回ごはん・お米とわたし作文・図画コンクール

図画部門

優良賞 6年

